

週報



「The Magic of Rotary」
2024-2025年度 国際ロータリー会長
Stephanie A. Urchick

四つのテスト

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか



福岡中央
ロータリークラブ

「変化につよく、未来をひらく」

国際ロータリー第2700地区

2024-2025年度 ガバナー 野崎 千尋

「今こそ育む、ロータリースピリッツ」

2024-2025年度 福岡中央ロータリークラブ

会長 泥谷 高博 幹事 竹下 盛人

本日の例会 令和7年3月10日（第2103回）VOL.48 No.28

卓話

「2024～2025 ローターアクト活動報告」
福岡中央ローターアクトクラブ 八木駿之介 会長

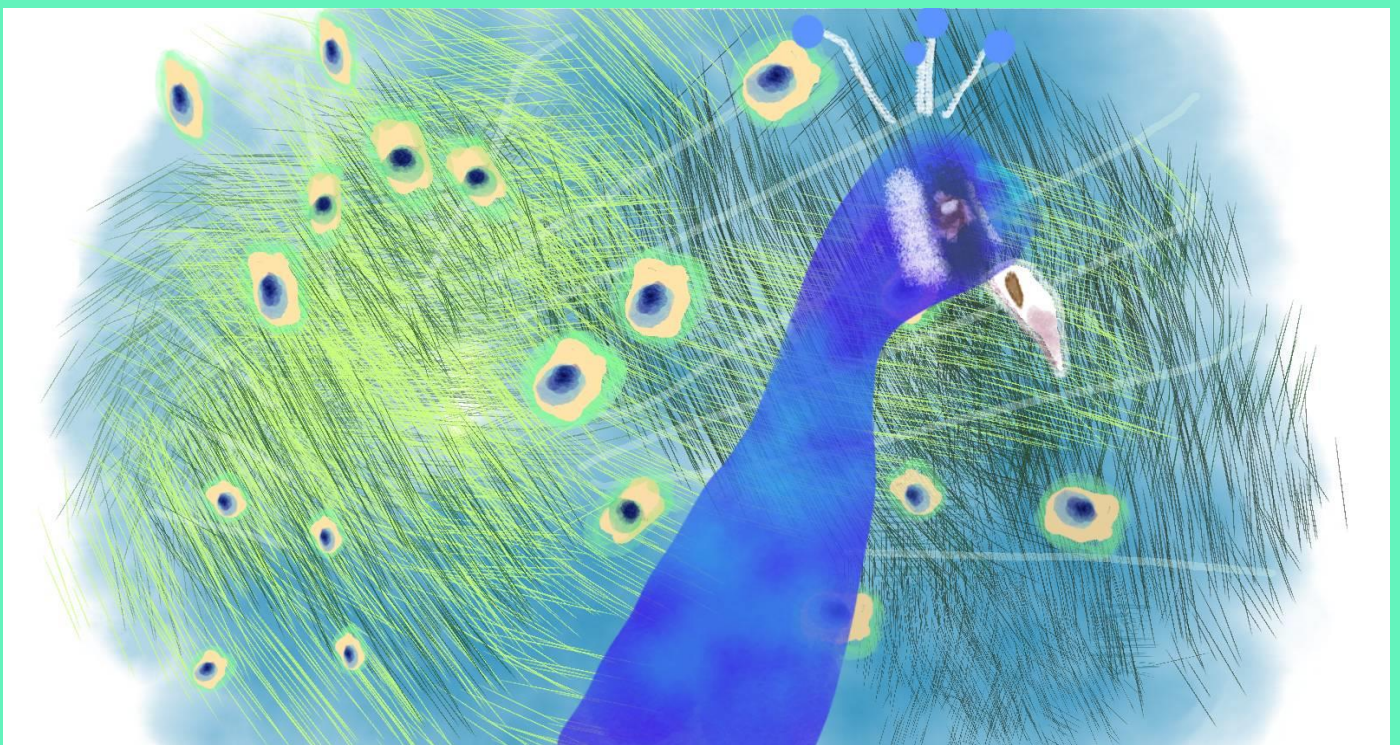
水と衛生月間

今後の
例会予定

- ・3月17日(月) 休会
- ・3月24日(月) 卓話 新会員自己紹介（伊東知子会員）
- ・3月31日(月) 卓話 日本銀行福岡支店長 佐久田健司さん（福岡RC）

「美しい羽」

羽の様子は、オンラインで教えてもらったペンを使いました。あと、体のグラデーションにこだわって描きました。注目してほしいところは、羽の色です。 福岡特別支援学校高等部1年 廣田琉花さん



例会日…毎週月曜日 12:30～13:30 例会場・事務局…西鉄グランドホテル

TEL 714-0305 FAX 714-0311 E-mail fukuoka-chuo-rc@wind.ocn.ne.jp HP <http://www.fukuoka-chuo-rc.jp>

前週例会の記録(3月3日)

出席報告

前回例会 3月3日		前々回例会 2月17日	
会員数	54名	会員数	53名
出席会員	48名	出席会員	41名
ビジター他	6名	修正	6名
合計	54名	免除	0名
出席率	88.89%	修正後出席率	88.68%

-来訪者内訳-

卓話 片田江由佳さん・武内由佳さん

米山奨学生 スヌワルパピトラさん

福岡RC2名・衛星クラブ1名 計 6名

ロータリーソング

平田 憲 ソング委員

・君が代 ・奉仕の理想

会長の時間

泥谷 高博会長



ご存知のように、先週土曜日に第5グループのインターシティミーティングが電気ビル共創館4階みらいホールにて開催されました。我がクラブからも20名以上の方々に参加していただき大変感謝いたしております。

今回のIMのテーマは「ロータリーの歴史に学び、未来をひらく」ということで、3部構成の内容でした。穴井元昭パストガバナーによる基調講演、福岡大学経済学部木下敏之教授による記念講演、各クラブから代表で1名ずつステージに上がってのパネルディスカッション「ロータリーの未来をひらく」。どの講演、イベントも大変素晴らしく大盛況のIMとなりました。最後のパネルディスカッションには当クラブから神崎会員に出ただき、本当にお疲れ様でした。壇上での神崎会員は流石！と感心させられるコメントの連発で、大変頼もしく、また誇らしく感じました。神崎さんグッジョブです！

さて、博多ロータリークラブの穴井元昭パストガバナーによる基調講演が個人的にも大変興味深い

内容だったので、出席できなかった方々のためにご紹介したいと思います。

IMテーマの「ロータリーの歴史に学び、未来をひらく」という演題で行われました。冒頭にイギリスの経済学者アーノルド・トインビーの言葉「自国の歴史を忘れた国民は滅びる」をかかげ、ロータリーの歴史を学ぶことの大切さとクラブの繁栄を紐付けるところから始まり、国際ロータリークラブの歴史、日本ロータリークラブの歴史を分かりやすく語っていただきました。特にロータリーにおける親睦ということについて、国際ロータリーで意味するFellowshipと日本式のFriendshipの違い・温度差は非常に興味深いお話でした。国際的な親睦というのは、奉仕活動を通じて育まれる仲間意識あるいは同志愛、即ちFellowshipであり、それに対し日本の親睦は飲食やゴルフなどの遊興的親睦であるが故に、日本のロータリアンは例会無くして親睦なし、親睦なくして奉仕なしという考えが大多数であると言われていています。日本のロータリアンが不得意なのは、奉仕の対象が不特定多数な社会奉仕・国際奉仕・青少年奉仕であり、穴井氏は意識改革が必要であるとおっしゃられていました。「日本人は、実は助け合いが嫌いだった」という国際比較で見る驚きの事実、なぜ日本のロータリアンが世界基準の奉仕ができないのかについて、穴井氏は長年悩まれていたそうです。それが最近、腑に落ちる発表があったとのことでした。2023年に発表された世界人助け指数(イギリスに本部のある慈善団体Charities Aid Foundationによるのもので、寄付をしたか？ボランティア活動をしたか？見知らぬ人を助けたか等の質問に対する回答を国ごとに集計したもの)、調査国142カ国中、日本は139位、米国は5位という驚きの内容です。その発表について、坂本治也教授(関西大学法学部教授 日本寄付財団寄付研究センター長)は論説で日本人の国民性について、日本は助け合いも公の援助も控えめでいいと考える世界でも稀な国、失業や貧困で困っている人は自分の力で何とかすべき、自助努力と自己責任を強調しがち、内輪には優しい日本人も見知らぬ人には結構冷たいと述べています。その国民性故に穴井氏は、「私たち日本のロータリアンは、まずは無理をせず、当面は日本式親睦と奉仕の両輪で前進しよう」と提言されていました。会長の時間は以上です、ありがとうございました。